

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2010年6月

No. 53



～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

2010年6月までの報告と予定

- 1月～6月 南ア教師研修と移動図書館学校訪問
ウグ郡プンガシエ教育センターと会議
- 1月～5月 毎月1回、本の梱包作業と会議(日本)
- 3月～4月 南アにて本の仕分け作業
- 5月 TAAA 南ア事務所代表、一時日本へ帰国
- 5月 学校菜園プロジェクトについて農業指導専門家と協議
- 6月 アフリカン・フェスタ出展(日本)

目次	基礎教育の改善と向上に向けて(平林薫)	2
	新刊紹介〈南アフリカを知るための60章〉(下谷房道)	5
	エクフデニからの移動図書館活動報告(久我祐子・上林潤子)	6
	青山学院高等部での活動(大浦淑恵)	7
	“インビクタス”を見て(渡辺英通)/多摩大学企画(丸田夢士・森直之)	8
	TAAAと私 第12回(野田千香子)	9
	2009年度決算書	10
	主な活動・ルイボスティ	11
	寄付・会費・本などを下さった方々	12



大自然に囲まれたメメ小を訪れた移動図書館車。地域には図書館などの設備は何もない。

基礎教育の改善と向上に向けて

～学校図書室の重要性と移動図書館の効果～

TAAA南ア事務所 平林薫



真剣な眼差しでスタッフから本を受け取るダリポカの生徒

僕たちだってワールドカップが楽しみ

ワールドカップを目前にして、ダーバンは新国際空港の開港もあり、いよいよ本番、と都市部では盛り上がりを見せています。ところが私たちが活動を行っているンドウェドウェ地域では、この大きなイベントの開催を実感できる場面が全くありません。このような地域の人々、特にサッカーが大好きな子供たちが、自分の国で行われる大イベントに触れることができないのだとしたら、誰のためのイベントなのでしょう。移動図書館車で巡回訪問をしているタタクサ小学校の校長先生から、“今年はサッカーをテーマにした本や情報が欲しい。私たちの学校の生徒だって等しく (EQUALLY) イベントを楽しみにしているのです”というメッセージをもらった時、このEQUALLYに大変な重みを感じました。南アフリカは、その過去の誤った制度を撤廃し、どこに住んでいても、すべての人が等しく安全で幸せな生活ができるような改革を進めてきたはずですが。しかし現実には、“町中に住み”“金銭的に余裕がある”人しかあらゆるものを享受できない、まして、国作りの基礎である教育に圧倒的な格差が残ってしまっていることは本当に残念です。タタクサ小はプロジェクトからの支援と先生方の努力で学校図書室を開設することができ、生徒たちは図書室で熱心に読書をしています。彼らが少しでもワールドカップを感じるができるよう、イベント関連の本や雑誌を購入して届けてこようと思っています。

アフリカ諸国の中でも低い基礎教育

ジェイコブ・ズマ大統領率いる新内閣が発足して1年、大統領も各省大臣も休む間もなく走り回り、これまで遅々として進まなかった遠隔地やインフォーマル地域に住む人々の生活改善、例えば水道、電気などインフラの整備や住宅の建設、農業による開発などに取り組んでいます。このような仕事は1つの省で行えるものではないため、各省の横のつながりを重視し、問題のある地域には複数の大臣が視察訪問していることは評価されるでしょう。教育制度に関しては、国の教育省を“基礎教育省”“高等教育省”に分け、それぞれに大臣や担当官を配置して、早急に必要とされる改革が進められているのですが、基礎教育省は、全国平均で他のアフリカ諸国よりも生徒の学力が劣っているという現実と直面しています。アンジー・モツェカ基礎教育大臣は、授業がきちんと行われていなかったり、教師が欠勤しがちだったりする問題のある学校をメディアと共にアポなしで訪問し、他の学校にも注意を喚起しています。また、生徒の学力向上のための学校図書室の必要性、重要性が再認識され、One school, One library (各学校に図書室を) というモットーの下、地方の学校の設備改善が急ピッチで進められています。とはいえ、現実的には全国のすべての学校に一度に図書室を設置するのは容易なことではありません。

“学校に図書室を！”を掲げて高校生がデモ

今年3月21日“人権の日”にケープタウンで高校生が“学校に図書室を”のプラカードを掲げてデモ行進をしました。投石や過激な行動のない静かなデモで学生たちは“学校図書室を持つこと、本にアクセスできることは私たちの権利”と訴えました。現在、南ア全土の学校で図書室と呼べる設備を持っているのは7%にも満たないと言われています。

TAAAによる移動図書館巡回と学校図書室開設

ちょうどそのようなタイミングで開始された“ボランティア貯金”の助成金による図書活動支援プロジェクトは、初年度が3月末に終了し、4月から2年目に入りました。対象校30校で開始した初年度は、プロジェクトのシステム作りから始まり、活動が定着するまで少し時間がかかりましたが、現在は学校とのつながりも深まり、コミュニケーションをとりながら活動を進めています。空いている教室のある学校は、まだ十分とはいえなくても図書室を開設することができ、時間割を決めて各学年の生徒が順番に図書室に来て読書をしています。プロジェクトの話聞いて問い合わせをしてきた4校が新たに参加して34校となり、2年目からはさらに6校を加えて40校を対象としています。各校とも活動開始時と現在ではかなりの進歩が見られ、これは教育省の指針、プロジェクトの支援、学校の努力がうま

く重なり合った成果といえるでしょう。また対象校の多くは、以前“ひろしま・祈りの石”の助成金による本棚とTAAAからの本の寄贈によって図書室の基礎作りが行われていたことも、今回のプロジェクトをスムーズに行える要因となりました。

すべての教師への研修の必要性

1年目の活動が終了した時点での反省として、図書活動の学校全体（教師全員）への浸透がまだ不十分だということです。特に、図書室や本を利用する機会のなかった年齢の高い教師は、本に対して違和感があるようで、本を十分に活用できているとは言えません。結果として、積極的に本を読み、活用している教師のクラスとの差が出てきてしまいます。後述のアンケートの中でプロジェクトへの要望にもありますが、学校全体、教師全員に対する何らかの形での研修を行う必要性を感じています。

TAAAの活動についての教師のアンケートの結果

1年目の終了時点でアンケートを行い、各校の校長と担当教師にプロジェクトの良かった点、問題点や改善点、要望を尋ねました。集計した中からいくつか抜粋します。

校長：良かった点

- プロジェクトによって学校図書室設立を果たすことができた。
- 時間割に読書の時間を設定して、生徒が図書室に来て本を読めるようになった。図書室の本は各クラスの授業でも利用され、生徒への貸出しも行っている。
- 生徒が移動図書館から本を選ぶ時間を十分に取ってくれているのがよい。
- バスは学校のカリキュラムに沿った本を揃えてあり、また読書を楽しむのにも適切。生徒たちが視野を広げ、知識を身につける役に立っている。
- 日に日に生徒たちが読み書き能力を身につけていることを感じる。
- 継続的な学校訪問でフォローアップをしてくれるのがよい。
- 生徒が読み書きの力を向上させることで自信をつけた。また読書を楽しむようになった。

校長：問題点・改善点・要望など

- もっとズール一語の本や辞書が必要。
- できれば教師全員に研修を受けさせたい。
- もっと頻繁に巡回訪問をしてもらえれば、教師も生徒もより多くの本を読むことができる。
- 巡回訪問時にもう少し時間をとってほしい。
- 校長への研修も行ってほしい。
- 地域住民の非識字率が高く、そのため本を読み、情報を得ることの大切さが理解されていない。地域住民へのサポートもあればよい。

担当教師：良かった点

- 生徒は図書室がどういうものかも知らなかったが、今では本はとても大切なものだ理解了。
- 教師・生徒両者が基本的な図書活動についての 生徒が図書車から選んだ1冊1冊をチェックし、アドバイスするダリボ小のムゾベ先生 知識を得ることができた。
- 生徒が自分たちの力で本を読み、情報を得る力をつけた。学校のカリキュラムに沿った図書活動ができた。
- 日に日に生徒の能力向上がみられる。
- 研修会は他の学校の教師と生徒の能力向上について話し合える機会となった。

担当教師：問題点・改善点・要望など

- 図書室の本や教材がまだ不十分（特にズール一語の本）
- 他の教師も研修に参加させたい。
- 図書室の重要性を伝えるための学校全体に対する研修を行ってほしい。
- 図書室のスペースが欲しい。
- 地域内にまだまだたくさんのサポートを必



要としている学校がある。

- プロジェクトコーディネーターもしくは専門家が1日学校に来て、学校図書室内において実地で指導してほしい。



自分も読んでいるのに、隣の子の本も気になってしまう。シゲドレニ小

各校では学校図書室設立という“長年の夢がかなった”と喜びを表現しています。町から遠く、情報から隔絶されたような地域の学校にとって、定期的に移動図書館車の巡回訪問があることも力になっているようです。クワシャンガセ小のセキュリティースタッフからは、特に男子生徒が本に触れる機会を持てたことがよい、という話がありました。地域にも学校にも彼らが余暇を過ごす場所や設備がなく、時間をもてあまして悪事に関わるようになる若者が多いのだそうです。本は生徒の学習の部分だけでなく、生活の中にも改善をもたらしていると言えます。習志野市図書館からいただいたバスの名称が“きぼう号”。ズールー語で“ITHEMBA 号”は、ンドウェドウェ地域の子供たちに希望を与えようと今日もほこりだらけのこぼこ道を元気に走っています。

財団ひろしま祈りの石の助成金により教師研修や本棚寄贈

昨年4月から今年3月まで“ひろしま祈りの石”の支援金により、クワズールーナタール州ウグ郡プンガシェ地域の学校への図書活動支援プロジェクトが行われました。プロジェクトは州教育省管轄の教育センターをベースに、地域の20校に対して研修会の開催や本棚の寄贈などにより、学校での図書活動開始のための支援をしました。同地域は町から離れた山間部で、住民の生活は困窮しており、学校の設備も悪く、本や教材が何もない状態が続いています。センターではTAAAから州教育省に寄贈された移動図書館車が学校を巡回訪問しており、学校図書室と移動図書館車の両面の活動によって、対象校では本を活用した授業が行われるようになってきました。ただ、センターの移動図書館車はまだ生徒への本の貸出しは行っておらず、現時点では教師を対象としたプロジェクトと言えます。各学校にもう少し蔵書が増えれば、生徒一人一人が本を手にとって読むことができるようになり、移動図書館車からも自分たちの読みたい本を選ぶことができるようになるでしょう。TAAAは同地域でJICAの事業として学校菜園プロジェクトを行うことが決定しており、今後も学校訪問の際に本の寄贈をしながら、図書活動への支援も続けていきたいと考えています。

日本のレストランからの寄付が学校菜園を支える

テレビ番組で放映されたンドウェドウェの学校菜園活動を見て問い合わせをくださった(株)コンセプトから昨年11月にいただいた支援金は、TAAAが行っているすべての活動に幅広く利用されています。同社がレストラン(恵比寿のALMAほか)を運営され、食育の重要性を強く認識されていることから、特にJICAの事業で行った学校菜園への継続したサポートに重点的に活用されています。学校ではプロジェクトによって栄養価の高い野菜をとることの大切さや、野菜作りの基礎的な知識と技術を学びましたが、近くで種が入手できない、種を購入する資金がないなど、菜園の維持、活動の継続に問題を抱えている学校もあります。現在、図書活動で各校を巡回訪問していることから、それぞれの学校の状況に合わせてサポートを行っています。今年の夏は高温で雨が少なく、作物の栽培には厳しい状況だったのですが、冬から春にかけてまた青々とした葉物がよく育つことを楽しみにしています。

ワールドカップのような世界的な大イベントを行う力を持つ一方、南アフリカには学校で出される質素な給食が一日の食事という子供がどれだけいることでしょうか。それを事実と受け止めて、私たちにはどんな支援ができるかを常に考え、行動していくことが大切だと思います。食糧確保や栄養改善のための菜園活動は、短期間に収穫が得られることで有効であるし、また図書活動を通して基礎教育の向上を目指すことは、子供たちが成長した時に知識と創造力に富んだ優秀な人材となる、という長期的な収穫が期待できます。学校への支援はまさに種を撒いて作物を育てるようなものだと感じています。

新刊紹介 〈南アフリカを知るための60章〉 (明石書店 2100円)

下谷 房道

新生南アフリカの大統領となるネルソン・マンデラ氏が釈放されたのは1990年2月。今から20年前になる。その頃の私は、高校の教員として最初の卒業生を送り出す準備をしていた。生徒には入学当初からアパルトヘイト下のひどい差別の状況について語り、卒業文集にもマンデラ氏釈放の記事を書いて、その歴史的意義を訴えたものである。

その頃の日本は、前年12月の大納会で東証平均株価38,915円をつけたが、この年に入って年初から株価は暴落。現在ではバブル崩壊が始まった年として記憶されている。今、思うことがある。「豊かな日本」はずっと続くものと何となく信じていた私は、やっぱり「上から目線」で南アフリカについて教えていたのではないだろうか。生徒の反応には「アフリカに生まれなくて良かった。」程度のものが少なからずあったのである。あれから20年。世界は激変した。私自身も時の波に洗われて現在に至っている。

今回紹介させていただく本は『南アフリカを知るための60章』(明石書店)編著 峯陽一氏である。この国に関わってこられた方々が、その経験をもとにあざやかにこの国の一部を切り取って目の前に見せてくれる。どの章も、また12あるコラムも多様で生き生きとして魅力的である。読む人は自分の南アフリカについてのイメージが先行し、画一的であることに改めて気づくのではないだろうか。(私はそうでした。)

それでは、この本を手にとり、編著者の峯陽一氏の書かれた「はじめに」を読むことにしよう。本の構成から、この本の読み方、用語解説などが並ぶ。この国の魅力を伝えたい、それには本格的な入門書が必要で、それを作ったという編集本書の狙いが明確で、良心的な著作者の態度が伝わり、安心感がある。読者のために気配りをめぐらす著作者の態度から、この本の編者は相手の立場に立てる人だ、というメッセージが届いてくる。まず、幸福な気分で読み進められる予感に包まれるのである。

第I部は歴史編、第II部は政治編、第III部は経済編、第IV部が社会編である。第V部が文化編、第VI部が国際関係編。このように書くといかにも統一され網羅的に記述されているような印象を受けるが、全くそのようなことはなく、独立した各章の執筆の集合体である。そこがいいのだが、そのことについてはまた後で改めて述べることにしたい。私も自分の関心が強く向いているものから目を通す。

第I部は「南アフリカの成り立ち」について述べられており、この国の歴史を知りたいという向きには大いに参考になる。高校の世界史の教科書には記述が極端に少ない。第II部は「ポストアパルトヘイト時代の政治」について。私としては第18章の「スティーブ・ビコと黒人意識運動の遺産」が興味深かった。黒人意識運動について大学時代に楠

原彰先生に教わったことが、私が南アフリカとの関わりを引き受けようと考えたきっかけになっている。大学生であった私は黒人の劣等感、そして黒人たちが自分の無力さを受け入れてしまうことこそが問題なのだ、という主張に鮮烈なものを感じたのである。自分自身の価値に自分自身が気づいていこう、という呼びかけは映画『遠い夜明け』でも描かれた。

第III部は「世界が注目する経済」、第IV部は「ダイナミックに変わる社会」。ここではわれわれの会の平林さんが「ズールー人の魅力」という章を立てている。平林さんがいかにズールー、南アフリカを愛しているかが伝わってくる。ここでもズールーというと戦闘的なイメージがこり固まっていた私の固定観念が溶かされていく。

第V部の『底流をなす文化力』はこれから大いに発展していく分野であろう。音楽からこの国に興味を持つようになった若者も多いであろう。また、今年はクリント・イーストウッド監督の映画『インビクタス』の舞台の国としても注目されている。サッカーワールドカップが近く開催される国。スポーツが入口になって、もっとこの国のことを知りたいと思う人が増えているはずである。この本は実にタイムリーな本である。

第VI章の「21世紀の草の根交流」は懐かしさを禁じえない。例えば前世紀の活動の例としてあがっている1988年の「反アパルトヘイトアジア・オセアニア地域NGOワークショップ」には学生の一人としてお手伝いさせていただいた。差別と戦ってきた黒人たちを東京の山谷などに案内し日本における人権問題の現状を見て貰ったこと等、今でもよく覚えている。

この本の魅力の一つは、各章ごとに独立し、それぞれ筆者が、思い描く南アの姿が描かれていることにあると思う。それぞれが一つ一つのいわば音となり、全体として一つのハーモニーを奏でているように受け取れるのである。(視覚的に表せば国旗の虹ということになるだろう。)もしかするとそれは南アフリカという国自体がそうであり、日本のように等質性を比較的強く求める国に住む我々を魅了してやまない点なのかも知れないと思う。

マンデラ氏の釈放から20年。私は、就職希望の多い学校で進路指導に当たっている。経済的な問題により、以前には考えられなかったようなことが沢山起きている。逆境の環境のなかで、生徒たちの多くは素直で人懐こく明るい。自分の問題を通して人のつらさを受け止める感受性もあるように感じる。私もまた、画一的な上辺だけの理解を捨て、人間としての話ができるように心がけている。今はこの生徒たちと卒業に向けて時を過ごしている。

エクフンデニ(元 MEI)からの移動図書館活動報告

マーガレット・ウェバー

上林潤子 訳

TAAA の最初の現地パートナーである MEI(メソヂスト・エデュケーション・イニシャティブ)は、昨年、名称をエクフンデニ に改めました。TAAA が移動図書館車を送る活動を始めたきっかけは、当時の MEI 代表ベントレイ氏の「生徒数に比べて、本が圧倒的に足りない。移動図書館車があれば、少ない本を効果的に利用できるのだが。」と、ふともらした言葉でした。当時、細々と英語の古本を送っていた私たちにとって、「移動図書館車を南アに送る」という発想はあまりにも大きく、突拍子もないものに思いましたが、現地の絶望的な本不足を目のあたりにして、出来るか出来ないかを考えるよりも「何とかしなければ」という思いが先にたち、日本に帰るやいなや移動図書館車送付計画を立てたのでした。それから試行錯誤がありましたが、埼玉県立図書館を始めとする団体・個人の多大なご協力で、移動図書館車送付活動が始まりました。南アへの移動図書館車第一号となったエクフンデニのバスは、日本で廃車になった後、南アで第二の“車”生を得て 13 年目を迎えました。現地の子供たちに囲まれて大活躍の日々です。エクフンデニは、活動当初から、「読書文化を育てる」ことを意識して活動を行っています。このことは、本イコール教科書であり、楽しむために読書をする習慣を持てなかった黒人地域においては、血のにじむような地道な努力を要します。昨年度から代表になったマーガレット・ウェバーは、地元の住民から読み聞かせボランティアを募り、積極的に学校内に入り、読み聞かせのプロジェクトをはじめています。「冊数が多ければいいということではない。本をただ提供するだけでは意味がない。しっかり読んでくれない」という彼女の言葉から、規模の拡大や数値目標にこだわらず、一貫として本質的な活動を続ける NGO 精神を感じます。昨年末、長年ドライバーを務めてくださったソンプレム氏が他界しました。氏の志を引き継ぎ、その後も滞ることなく移動図書館車プロジェクトは走り続けています。(久我祐子)

団体情報 ◆団体名 エクフンデニ ア・プレイス・オブ・リーディング ◆代表 マーガレット・ウェバー ジェフ・スマート

図書館車情報 ◆車種 三菱 ◆車両状態 可能な限りのメンテナンスを実施。将来的に買い替えを目標に財政計画を検討中。◆技術的な問題 昨年クラッチに不具合が発生しスペアが届かなかったため、一学期間稼働できなかった。

対象地域と学校の情報 ◆対象地域 デベトン、エトワトワ、チーフ・アルバート・ルッスリパーク ◆対象校 31 校

プロジェクト情報 ◆プロジェクトの開始 1997年

◆スタッフの数および職種

・運転手兼アシスタント 2名(有給) ・教師指導スタッフ 1名(契約) ・移動図書館車マネージャ 1名(ボランティア)
・プログラム・マネージャ 1名(ボランティア) ・読み聞かせボランティア 55名

◆運行資金 主要な資金提供者:セント・アンドリュース校 および個人寄付

◆本の貸出・管理方法

バーコードおよびリブウィン・システムというソフトウェアで管理。システムの使用料はエクフンデニが負担。ソフトを使って図書の種類、統計的資料の作成等を行う。

◆生徒が直接本を借りることはできますか。

デベトン小・中学校のグレード4とグレード6の児童は、リソースセンターから直接借りることができる。

◆直接貸出の割合(対教師に対する貸出) 約8%。

◆移動図書館の学校巡回頻度 1学期に2回

◆図書館車用の保管図書総数 目録作成済み:18,000冊
未処理:7,000冊

◆生徒に人気がある本

年齢別: 不明(教師が借りるため)

南アフリカ人の著書、現地語の書籍に対する要望が強い。子どもたちが必要とする本を届けられるよう仕分けに工夫している。また地元の出版社とも連携して在庫本の充実を図っている。(寄贈された本は、子どもたちには不要、あるいは利用方法が不明で、単に書棚のスペースを埋めているだけ、ということも多い。注:TAAA から寄贈された本ではない)

◆バスが一巡回に運ぶ冊数 約 2,000冊(小型本が多い)





ため)

◆一巡回の平均貸出冊数

最初の学期は、平均約 95 冊。(教師の求める本を用意できなかったため、期待はずれの結果となった。)この休暇中に改善を図ったので、次の学期には利用増加が期待される。

◆本以外に移動図書館車に積載しているもの

2 学期目からは教育用玩具やジグソーパズルも載せて、利用状況をモニタする予定 (Foundation Phase 対象の児童用)。

◆プロジェクトに教師たちはどのような態度で関わっていますか?

学校に拠って異なるが、図書館活動が 13 年

も続いていることから、大多数の教師たちとの関係は良好と考えている。

◆プロジェクトの主な問題点

資金不足。資金調達のために、現在企業の社会的責任プログラムを活用できるよう再登録を行っている。(資金難で、スタッフが半日しか稼働できず、活動全体が制限されてしまっている。)

図書館車車両も老朽化し、安価でメンテナンスの簡単な国産車に買い替えを検討しているが、実現には時間がかかる。

◆一年間(2008 年4月～2009 年3月)の主な進展

- 読み聞かせボランティアがプロジェクトの充実に大きな役割を果たした。彼らボランティアの支援を受けた 4 つの学校で、読書意欲・読書力が向上(特にグレード 1～3 の児童・教師支援に注力)。
- リソースセンターのボランティア 2 名の支援により、新しい教材がより早く配布可能になった。
- ファウンデーション・フェイズの教師研修のために雇った有資格・経験豊富な教師指導スタッフ(契約)のおかげで、研修を始めた 2 校で教師達に良い影響が現れている。英語を第 2・第 3 言語として学ぶ際に役立つフォニックス・プログラム(THRASS)を現在導入中。

2009 年末に大きな変化や困難に直面したにもかかわらず、2010 年に、プログラムの成長・発展が見込まれる幸先よいスタートが切れたことを私たちは誇りに思っている。読む力をつけること、そしてそのことによって学ぶ力を獲得すること、それが私たちのモットーである。

生徒にとって大きな励み

～青山学院高等部での活動～

青山学院高等部 司書教諭
大浦 淑恵

我が校では、図書委員が中心となり全校生徒から古本を集めそれを文化祭で売り、その売上金を寄付する活動を 30 年近く行っています。生徒達が自分達でも社会に貢献できる事は何かと考え始めた活動ですが、広く世界に目を向けた理由で、寄付先は海外で事業を行っている団体に行っています。

T A A Aに出会ったきっかけは、1993年に掲載された新聞記事「南アに英語の本を送ろう」です。南アフリカに本を送るための郵送料が不足しているとの内容でした。海外で事業を行っている団体は数多くありますが、教育に関わる事業に寄付金を使っただけのことは、生徒にはとても分かりやすく特に図書委員会の活動として大変意義あることです。早速図書委員に働きかけ、1995年に初めてT A A Aに寄付させていただくことになりました。その後もご縁あってこの7年間は継続させてもらっています。また今年度は、図書館移転のため廃棄しなければならなかった英語の教科書類も引き取っていただき、とてもありがたく思っています。

寄付金額の多少にかかわらず送ってくださる丁寧なお礼状と、毎回送付して下さる会報は、生徒たちの大きな励みになっています。今後も南アフリカでのT A A Aの活動を陰ながら応援しています。

映画「インビクタス～負けざる者たち」を見て

渡辺 英通

アパルトヘイト撤廃後、のマンデラ氏の日常生活や白人と黒人のまだ終らぬ亀裂を修復するために、ラグビーを通じてアイデンティティーを計ろうとする渾身の努力等、他の南ア映画とは別の角度から観ることができて、それなりに南アを知る上でも評価できます。しかし、作品の中身が社会派の中でも緩く、前回の「マンデラの名もなき看守」よりもさらに大衆迎合作と言うか、ビギナー向けで、今年、開催されるサッカーW杯とセットで観て、南ア



を知って下さいと言う印象を持ちました。(興味のある方は劇場かレンタルDVDでご覧になって下さい。) 南ア映画を通じて、人生観を変えられる位の影響を受けた私にとっては、マンデラ氏のようなリーダーよりむしろ、非主流の人達である白人教師や白人ジャーナリストのドナルド・ウッズ、ANC の唯一の白人幹部の親子(ジョージ・スロボ)、ロベン島に送られた「輝く夜明けに向かって」の主人公のパトリック・チャームソン、非業の死を遂げたスティーブ・ビコ等の解放家の方から特に学ぶことがあり、生きる意味のような事を真剣に考えさせられました。今回の作品も美化していると言え、それまでですけど(前回の「マンデラの名もなき看守」はロベン島を背景にした点では見応えがありました)アパルトヘイト時代や「ツオツィ」も物凄く知的な作品でした。文化や肌の色の違いだけでなく、南アと日本人との決定的に異なる点は感性(日本人が喪失したハングリー精神も含め)の違いで、それを見習って(ヒントにして)これから、さらに厳しくなるであろう自国・日本で生きてく知恵に出来れば幸いです。

(写真：映画より、マンデラ大統領役のモーガン・フリーダムとラグビーのリーダー役のマッド・デイモン)

多摩大学マッチ DAY 企画

THAN 球 プロジェクト Aid to Africa

多摩大学経営情報学部マネジメントデザイン学科

横浜 FC イベントゼミ

4年丸田夢士

3年森 直之



この度、私たちは今年2010年にワールドカップが開催されるにあたって、開催地の南アフリカに注目しました。そこで、南アフリカの情勢を通して、皆さんの今後のスポーツライフ(プレーすること、応援すること、etc.)を考えていただくことを目的としました。

そもそものきっかけとしては、私が大学三年生の4月に、ワールドカップの開催国である南アフリカでは、日本とは違い、道具や設備が整った場所でサッカーが出来ないという恵まれない環境にあることを知ったことでした。そこで、少しでも助けになりたいと思い、今回のイベント開催の企画を考えました。

イベント当日は、ブースを設置し、プレゼンテーションおよびチラシ配布により南アフリカのサッカー事情を伝えるほか、現地の子供達に

ボールを送るためにボールの回収を行いました。結果、3333人の来場者と関係者の方々を含め63個のボール回収を実施することができました。

これらの活動を通して、何かを多くの人に伝えることの難しさとすばらしさ、そして今後も継続しワールドカップ熱で冷めてしまわないよう活動を続けていこうと考えております。

最後になりましたが、今回ご協力いただいた TAAA の野田様を始めとする多くの方々に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。(写真は TAAA の作業場にて、中古63個+新品のボールと空気入れを持ってきて下さいました)

TAAAと私

第12回 (1999～) 野田千香子

「のんびりと」の意味するもの

1999年3月4日の毎日新聞“一語一話”欄に元南アヨハネスブルグ支局長だった福井聡さんが書かれている。『相変わらずのんびりと続けております』。以前、アフリカ特派員だったころ取材した『アジア・アフリカと共に歩む会』の野田千香子代表から手紙が届いた。途上国に『何か教えよう』『物を与えれば良い』との態度では、ボランティアは絶対に続かない。現地ですべての食糧を10日分だけ送れば、途絶えた後に人々はどのように感じるだろう。最先端医療施設を送ればだれが維持管理するだろう。『教わる』気持ちなしでは援助は続かない。

歩む会は日本で余った英語の本や教科書を贈る活動から出発し、その本を載せて走る移動図書館車用の車を送り、人の交流を広げている。『(現地は)何台でも欲しいと言っていますが、本当に稼働するのを見ないうちは次回の準備はしないつもりです』と厳格な面も。野田さんの『のんびりと』の持つ意味は重い。

南アを良く知る福井さんが私の「のんびりと」という言葉を重く受け止めて下さったのは、さすがだといまさらのように嬉しく思っている。

本当に届いているのか

世界の中の一小国、日本から南アフリカの状況を知る、先生や子供たちを親しく知っていく中で彼らの望んでいること、必要としていることを知り、応えていける事柄に応じていく姿勢で続けている。よく、訊かれる質問は「本当に届いているの」「本当に使われているの」。私たちは自信を持ってyesと答えることができる。私たちは押し付けたり、命令したりはしない。先生や生徒たちが望んでいるもの、あれほど丁寧に授業が充実し、子どもの成長の助けになることかと、彼らが願っているものを送ってきた。それらは確実に届き、役に立っていることを、そのときどきの通信手段で知り、この目で見、また時には第三者に訪ねて貰ったり取材に来ていただいたりしてきた。結果や過程を確認しながら、その中でさらなる問題を解決するために動いてきた。

TAAA 南ア事務所の開設

TAAAが飛躍的に発展し、多くの南アの学校に深くかかわっていくことができたのは、南アを愛する平林薫が住まいを南アに定め、TAAA南ア事務所を開いたことであつた。2度目の南ア住まいを決めて、日本から南アへ飛んだのは、2000年9月であつた。平林はフリーの仕事を選び、ウィークデイの一部を使って、TAAAの活動のために現地のNGOや自治体や学校を訪問してきた。今では、週のうちほとんどの日を地方の学校を移動図書

館車に乗って学校を訪問したり、本に親しむ機会の少ない遠隔地の学校の教師たちに読書を授業に取り入れるための研修会を行ったり、英語やズールー語の本を学校に配布したり、更には現地の農業指導者と共に学校の敷地内に菜園を作る活動などに忙しく働いている。平林が地域の学校の生徒や先生たちをよく知れば知るほど、少しの手助けで、ぐんと教育環境が改善することがいくらかであることが分かってきたのだ。

これまで送ってきた28台の車は主として四つの州の教育省に送り、うち3台は南アのNGOに送り、1台は南アTAAA事務所が現地のスタッフと共に学校を巡回運行している。移動図書館車が巡回する学校区で学校菜園も行ない、読書指導も行なう、それらが相俟って信頼関係が深まり、役所の人たちも積極的に動いてくれるようになった。

本に手が届かなかった時代から、“本の好きな子どもたち”が育ち、畑づくりを知らなかった子どもの中から、“畑仕事が好きな子どもたち”が育ってくる。南アの黒人の人たちの学校にはほとんど運動場もなく、音楽室もなく、理科室もない。放課後の部活動やお稽古ごともない。放課後は遠い家に歩いて帰っていただけだ。

TAAAが送った2000本の縄跳び紐は女の子たちに大人気。集めた中古のサッカーボールに新しいボールと空気入れも買い足して送った。布切れやビニール袋を丸めて縛ってボール代わりにしていた男の子たちは、大喜び。

地域の多くの学校を回る中から見えるもの

平林は何が彼らに必要なか、彼らの気持ちを良く知っている。平積みになった本は一定量を超えると使いにくい。本棚は日本では当たり前のことだが、南アの学校にとっても必需品であることが平林を通じて理解できた。資金の一部で本棚も購入し、各学校に寄贈した。

図書室ができた学校、図書室を作る余裕のない学校でも、本棚が置かれて、本や資料が整理できて、本は有効に使いやすくなった。

移動図書館車の送り先からの毎年の報告書

TAAAではこれまで各地に送ってきた移動図書館車がどのように使われているのかを知るために受け取り先から報告書を出して貰っている。その内容は、車の状況、巡回学校数、利用生徒数、利用される本、不足している本、その地域の給食の状況など多岐に渡っている。報告を受けて、修理が必要であることが分かった際は、経費の一部を支援したこともある。遠隔の地方で巡回し、本が不足している場合は、TAAA南ア事務所から、本を送ることもある。

TAAAはこれまでもこれからも、南アフリカの人たちの気持ちを大切に、学校を通じて、読書と菜園の活動を応援し、その周りのコミュニティの要望にも応えていこうとしている。

この連載は一旦、休み、何らかの形で続編を書きたいと考えている。

アジア・アフリカと共に歩む会

2009年度 決算書

会計期間：2009年4月1日～2010年3月31日

I：一般会計

(収入の部)

寄付金		3,388,413
会費	1. 会費	103,000
	2. 賛助会費	70,000
助成金	1. 国際協力機構(前年度調整分)	43,766
	2. ボランティア貯金	6,490,000
販売収入		34,200
受取利息		1,445
	計	10,130,824

(支出の部)

国内図書館車関係費	154,313
国内図書関係費	422,053
南ア事務所活動費	9,608,998
南ア訪問費	464,380
通信費	130,757
事務費	128,106
旅費交通費	40,520
印刷費	80,500
水道光熱費	8,839
ボランティア貯金返還金	115,290
	計 11,153,756

II：収支決算書

前期繰越金	4,707,340
+ 一般会計収入	10,130,824
一般会計支出	11,153,756
- 次期繰越金	3,684,408
	0

(南ア事務所活動費内訳)

	入金	出金	残高
前期残高			453,091
今期活動費送金計	9,608,998		
1. ボランティア貯金事業		5,906,382	
2. ひろしま祈りの石助成金事業		1,230,611	
3. その他		833,756	
今期残高			2,091,340

2010年5月15日

会計：西村裕子

会計監査：北爪健一

◆ 主な活動 (2010年1月16日～2010年5月15日) 下線は南アにおける活動

1/16 HP更新 渡恵美子
 1/16 ミーティング 浅見克則 渡辺英通 関根彰博
 1/17～25 会報52号編集 野田千香子
 校正 西村裕子
 1/20 JICAと打ち合わせ会議 平林薫 久我祐子
 1/20 会報用住所ラベル準備 西村
 1/20 ミーティング 平林 久我 野田 津山直子
1/23 南アへ帰国 平林
1/25～29 教師研修会及び学校巡回訪問準備 平林
 1/26 会報52号印刷発注 野田
2/1 南ア TAAA ミーティング 平林 マイケル サン
 ディーレ
2/2 教師研修会 平林
 2/3 TAAA ブログ更新 西村 野田
2/4～5 ンドウエドウェ学校訪問 平林ほか
2/8～12 ンドウエドウェ学校訪問 平林ほか
 2/9 HP更新 近藤信幸
 2/11 本を作業場へ運搬 渡辺
 2/14 梱包作業と会議 浅見 野田 下谷房道 西村
 上林潤子 北爪健一 幸村信明 津山直子 ネオ
2/15～19 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 2/17 HP更新 渡
2/22～24 ンドウエドウェ学校訪問 平林
3/25 ウグ郡ブンガシエ教育センター及び学校訪問
 平林
 3/1 段ボール購入作業場へ搬入 浅見
 3/1 南アへ送金 野田
3/1～5 ンドウエドウェ学校訪問 平林
3/8～12 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 3/9～3/12 埼玉大学付属中同窓会に TAAA の活動を
 展示 野田
 3/9 青葉インターナショナルスクールより1トンの本引
 き取り 浅見
 3/12 ミーティング 浅見 野田
 3/14 梱包作業と会議 野田 西村 浅見 北爪
 下谷 鯨井幸一 上林 幸村 浦和学院高校より
 石川芹菜さん 岩上亜紗美さん
 3/15 ボランティア貯金配分金2010年度決定
3/15～19 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 3/18 浦和学院高校より小林志奈先生、星野光代先生
 来訪 野田
 3/20 会計事務 西村
 3/22 多摩大学の丸田夢士さんと森直之さんがサッカー
 ボール60個等を寄贈下さる 野田が受け取る
3/23～24 ンドウエドウェ学校訪問 平林
3/25 ウグ郡ブンガシエ教育センター及び学校訪問
 平林

3/29～4/1 ELITSオフィスで本の仕分け整理 平林
 3/31 JICA 事業2010～2012確定通知
 4/5 会計事務 西村
4/6～8 ELITSオフィスで本の整理 平林
4/9 移動図書館車整備 平林
 4/11 梱包作業と会議 浅見 鯨井 野田 西村
 下谷 上林 北爪 浜本由里子 浦和学院高校より
 香川英範さん 新井瑞穂さん 高橋香苗さん
 4/6～4/20 決算書作成 西村
 4/11 決算書作成照合など 西村 野田
4/12～14 教師研修会及び学校巡回訪問準備
 平林
4/15 教師研修会 平林
4/19～23 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 4/20 アフリカンフェスタ出展申し込み 丸岡晶
4/25 プンガシエ教育センター・ドラミニ所長と会議
 平林
4/26 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 4/27 南ア大使館主催フリーダムデイ祝賀会
 久我 野田 津山
4/28～30 ンドウエドウェ学校訪問 平林
 5/1 ミーティング 浅見 野田
 5/2 「ぐりとぐら」ズルー語ラベル作成 西村
5/3 農業指導専門家リチャード・ヘイ氏と会議
 平林
5/4～7 ンドウエドウェ学校訪問 平林
5/8 日本へ一時帰国 平林
 5/9 梱包作業と会議 西村 北爪 野田 浅見
 鯨井 浜本 榊裕美さん 菅幸恵さん
 5/9 会計監査 北爪
 5/10 HP更新 渡
 5/11 JICAにて会議 平林 久我 野田
 5/13 南ア会計照合など 平林 野田
 5/15 運営会議 久我 野田 浅見 北爪 丸岡
 西村 平林 午後 ミーティング 鯨井 平林 野田
(5/23 南アダーバン着 平林)

ルイボスティのご紹介

ルイボスティ茶は南アの西ケープ州だけでとれる健康茶です。カフェインが少ないのでどなたでも召し上がれます。

1箱 80パック 2000円(送料一律500円)
 (5箱以上 送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みは、P12 のTAAA連絡先へ

ルイボスティに同封する振込用紙で後からご送金ください。